



馬房にて青草をもらい、ご機嫌なガーデンコンサー

## 小島友実の あの馬の STORY



### ガーデンコンサート

ガーテンコンサートはなぜか「ガーテンコンサート」を念ね計り勝ち活躍したアースサウンドの2番仔。その母に、初年度産駒から活躍馬を多数輩出しているロードカナドを父に迎えた事もあり、ガーテンコンサートは一歳募集の開始後早々に満口になりなるなど、注目を集めています。

アースサウンドを管理した和田正道元調教師が今年2月末で定年となつたため、和田厩舎で調教助手をしてきた尾関知人調教師がガーテンコンサートを管理。師に1歳馬募集の時にお話を伺った際、「この馬を任せても頂く以上、活躍させられるように頑張ります」とですね。バランスの良い馬で、パチリと頭を下げる馬体の持ちはすこし期待を寄せてしまつた。その後の育成が順調に進み、5月1日には美浦トレセンへ入厩。早速、ガーテンコンサートに会って厩舎へ伺いましたよ。まずは尾関調教師が、これまでの成長過程をじっくりお聞きを聞きました。

「当初はいかにも短距離馬というイメージはなかったのですが、馬が成長する中で父と母の遺伝を受け、少しも距離を短いタイプになりました」と印象ですね。ですが詰まつて、やはり「1歳馬のなかじ感じ」とあります。

美浦トレセンでの調教では予定していなかった時計よりも速くなる事もあり、坂路では終い1ヘッドで12秒台前半をマークするなど、素質の土鱗を見せてもらいます。「5月末からの月初旬までの美浦坂路は馬場が軽く、時計が速い印象があるのに単純比較は出来ないものの、ガードル」

「ガーテンコンサートは無理をしながらタイプが出ていないと感じます。やればやる程、動きもつなげピート感がありますね。馬も元気で気持ちが入っているかぎりやつ過ぎな感じですね」とあります。

ガーテンコンサートのホールペーパーに掲載された通り、少し咳をしてしまったので獣医師による検査が行われましたが異常は認めませんでした。尾関師によると、「少し喉が荒れてしまつたので、吸入治療を施しています。良い方向に向かっていますので、このまま進めることができました」とのことでした。

ガーテンコンサートを担当するのは国陽人調教厩務員です。「咳はまだしお落ち着いていませんが、少し咳があり、大きな頭に驚く時がありますが、乗る心地は感じですかね。飼葉はよく食べますよ。牝馬なので食べてくれるのは良いくらいです。馬房での癖でありますか? ポロの上を寝てしまう時がありますが、馬体が汚れてしまつるので手入れが…(苦笑)。それ以外は手がかかるないし、扱いやすい馬なんですね。普段はガーテンコンサートと呼んでいます(笑)」

一方で、三國調教厩務員はアースコンサートを担当し、ガーテンコンサートが函館で連勝した時の担当者だったのです。グリーンファームの馬とは相性が良い厩務員さんですから、期待が膨らみますね。ガーテンコンサートも三国さんの言つ事をよく聞いて、馬体を汚さないよう心がけます(笑)。